

掘師会 2022年初秋会報

(日本における地下掘削の技術向上並びに継承するために設立された会)

一般社団法人掘師会

東京都練馬区大泉学園町

理事長 内山 剛

1. 理事長挨拶



2020年コロナ禍、志を持った皆様と一般社団法人掘師会を立ち上げることができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

オンライン意見交換会では多くの御提言をいただき感謝しております。

引き続き皆様とともに、ボーリング技術のスキルアップを図っていきます。

今後とも宜しく願い申し上げます。

内山 剛

2. 会議報告

開催	2022年7～8月	場所	オンライン	参加者	会員及び地質調査事業者様
概要	・公共事業／民間事業の違い、それぞれに求められる対応力についての議論が行われた。				

3. 本年の活動

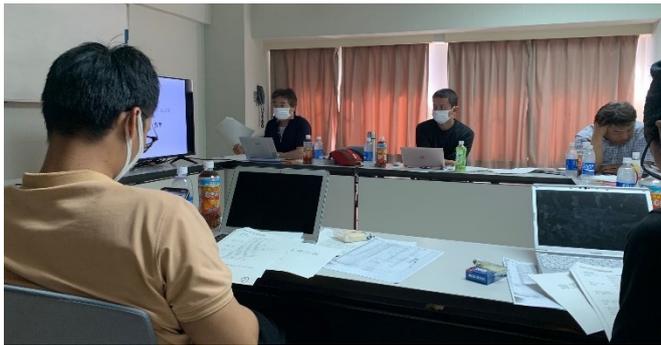
コロナ禍、活動が制限されている状態のため、当面はオンライン会議による情報交換を行っていく。活動制限が解除された段階で、掘師会として勉強会を実施していきたい。(2022年1月より変更なし)

4. スキルアップ勉強会

密を避けるため、ウチヤマ地質工業内で少人数による勉強会を開催した。

コロナ禍を脱する兆しも見えてきたので、今後、掘師会の皆様と勉強会を開催し取り組んでいきたいと考えています(内山理事長)。

<2022年ウチヤマ地質工業内の主な勉強会>

2022年	勉強会の内容
7月	技術勉強会合宿(合計3回の最終会)
8月	安全に関する勉強会 なぜ安全は求められるのか? どんとき事故や災害が発生しやすいのか?等 

5. トピックス

温室効果ガス発生抑制に向けた取組み

ここでは地球温暖化の背景を見直し、温室効果ガス発生抑制に向けた取組みを考えていきたい。

1. 地球温暖化の背景

(1) 地球温暖化の影響

地球温暖化が環境や生態系のバランスを崩し、極論として人間が地球上で暮らせなくなるおそれもある。環境バランスを崩した例を挙げると、世界的に地球温暖化※1が進み、氷山や氷河が溶けて海面水位が上昇すれば、標高が低い地域は生活ができなくなる。

※1：環境省の資料によると、2020年時点で約100年前と比較して平均気温は1.1℃上昇している。

(2) 地球温暖化の要因

温暖化の要因として、二酸化炭素やメタン等の温室効果ガスが挙げられている。森林は温室効果ガスを吸収し温暖化を抑制しているが、森林伐採が進み温室効果ガスを吸収し難い状況だ。

2. 温室効果ガス発生抑制に向けた基本的な考え方

(1) 温室効果ガスの吸収と温室効果ガス発生抑制

その対策はA.温室効果ガスの吸収とB.温室効果ガス発生抑制とに分けられる。A.温室効果ガスの吸収は植林等で森林を増やすため個人だけでは対応しにくい、B.温室効果ガス発生抑制は、個人や事業者が手を付けやすい。例えば、移動手段をオートバイから自転車にすれば、オートバイのエンジン燃焼時の温室効果ガス（二酸化炭素）発生が無くなり、結果的に温室効果ガス発生を抑制できる。

(2) 温室効果ガス発生抑制に向けた基本的な考え方

環境省の資料によると、温室効果ガス発生抑制に向けた基本的な考え方は次表の通りである。

<温室効果ガス発生抑制に向けた基本的な考え方>

項目	内容(例)
①省エネ	高効率の照明・空調・熱源機器の利用
②エネルギーの低炭素化を進める	太陽光や風力等の再生可能エネルギーの利用
③電化の促進	電気自動車の利用

出所：環境省「中小規模事業者のための脱炭素経営ハンドブック Ver.1.1」

(3) ボーリング事業者・地質調査事業者における最初の一步

まずは、前述の脱炭素に向けた基本的な考え方の「①省エネ」を心がけることが良いであろう。省エネは、値上がり傾向が続くエネルギーコストの削減に繋がり、経費削減に繋がりやすく、営業収益にプラス効果が期待できる。「①省エネ」に取組み、「②エネルギーの低炭素化を進める」や「③電化の促進」に繋げていくのが現実的であろう。

執筆：2022年8月31日 小島康（中小企業診断士）

編集：掘師会事務局（合同会社ココジマ）